

視力低下と認知症



視力の低下と認知症の
関係について教えてください。

A 報は全感覚情報の8割以上を占めるといわれるほど、人は視覚に頼っています。このため、高齢になつても視力が良い人は認知症になる率が低いことや、認知症の方の白内障の手術後に生活機能がわざかながら改善する例もあり、視覚維持は認知症予防に欠かせないものです。高齢者の視覚低下の特

徴としては、近くが見えにくい以外にも、水晶体というレンズが黄色がかるため色をきつています。このため、ちんと判別できな

い、ぼやっと見える、まぶしく感じるなどがあります。そのためには、そのまま放り下を色違いでなく、化置という悪循環にならなければなりません。一度は目が見られたら要注意かもしません。

そのために、野狭窄（きょうさく）の検査をお勧めします。日常的に階段の最後に一度は目を照らす“心の窓”といいますが、その窓から明るく照らす“心の窓”が明るいともいえますね。



朝倉病院
理事長／院長
田辺 裕久さん